

2020年度 SYLLABUS 【博士前期課程】

授業科目名：マクロ経済学特論	
担当教員名：木立 力	
<p>授業科目概要：</p> <p>GDP、雇用、経済成長、デフレの要因など、経済全体の集計量を分析する分野がマクロ経済学である。</p> <p>この授業の概要は、使用する教科書の2つの特徴によって、まとめることができる。1つ目は3点の基本原理で一貫して述べていることである。それは、「最適化」、「均衡」、「経験主義」である。1, 2点目は講義で説明せざるをえない。3点目の「経験主義」は経済学や医学で用いるエビデンスに基づく実証分析の最新の考え方を取り入れている。</p> <p>2つ目は、従来の教科書で取り上げられていない最新理論を読みものとしてわかりやすく説明していることである。例示すれば、リーマンショック以降各国が模索している金融政策の最新理論について解説している。また新技術による経済成長の要因について解説している。</p> <p>マクロ経済学全般をカバーすることはできないので、主要部分を抜粋して取り上げる。</p>	
<p>履修上の留意事項：</p> <p>今年度用いる教科書（原著2015年刊行）は、アメリカでは高校の教材としても使われることもあるほど予備知識を必要とせず、リーマンショック以降の最新の経済現象に対応して発展した理論を読み物として解説していることで、ビジネスマンにも適していることが「監訳者まえがき」に書かれています。（amazonの「試し読み」で読むことができます）著者は、近年のマクロ経済学の発展を牽引してきた一人であるとともに、さまざまな一般向け経済書を著わしていることでも知られているように、最先端の理論が平易に解説されています。教科書は大学図書館に所蔵されています。</p>	
教科書・参考書（参考文献）	
<p>教科書名：『マクロ経済学』</p> <p>著者／編者：アセモグル、レイブソン、リスト</p> <p>出版社：東洋経済新報社</p> <p>出版年：2019年</p>	<p>書名：</p> <p>著者／編者：</p> <p>出版社：</p> <p>出版年：</p>
<p>書名：</p> <p>著者／編者：</p> <p>出版社：</p> <p>出版年：</p>	<p>書名：</p> <p>著者／編者：</p> <p>出版社：</p> <p>出版年：</p>
<p>書名：</p> <p>著者／編者：</p> <p>出版社：</p> <p>出版年：</p>	<p>書名：</p> <p>著者／編者：</p> <p>出版社：</p> <p>出版年：</p>
<p>評価方法及び判定基準：</p> <p>各章の終りに練習問題がある。それらは議論の対象となる題材も含んでいる。その中から選んだ問題に答えてもらい、その結果によって評価する。</p>	
<p>授業目標及び進め方：</p> <p>受講者の前提知識や興味に応じて、進め方を柔軟に対処します。</p> <p>教科書に忠実に沿って進めるが、日本の事例について、随時追加資料を配布します。</p>	

◆ 授業進行計画

第1回	テーマ：経済学の原理と実践 内 容：3つの原理 教科書／第1章
第2回	テーマ：3つめの原理、経済モデルをデータによって実証する 内 容：因果関係と相関関係の違い 教科書／第2章
第3回	テーマ：1つめの原理、最適化 内 容：経済理論の考え方 教科書／第3章
第4回	テーマ：2つめの原理、均衡 内 容：需要と供給と均衡 教科書／第4章
第5回	テーマ：経済活動の計測 内 容：GDPは何を計測し何を計測できないか 教科書／第5章
第6回	テーマ：世界の経済格差 内 容：一人当たり所得、労働生産性、技術進歩 教科書／第6章
第7回	テーマ：経済成長の要因 内 容：経済成長の要因、産業革命、成長と貧困 教科書／第7章
第8回	テーマ：なぜ豊かな国と貧しい国があるのか 内 容：文化仮説、制度仮説 教科書／第8章
第9回	テーマ：雇用と失業 内 容：雇用と失業の測定 教科書／第9章
第10回	テーマ：クレジット市場 内 容：融資の需要と信用の供給 教科書／第10章
第11回	テーマ：金融システム 内 容：中央銀行と銀行による貨幣供給とインフレーション・デフレーション 教科書／第11章
第12回	テーマ：景気変動と景気循環 内 容：景気変動、大恐慌、失業率の変動 教科書／第12章
第13回	テーマ：反循環的マクロ経済政策 内 容：景気変動を和らげるための金融政策と財政政策 教科書／第13章

第14回	テーマ：復習と問題練習 内容： 教科書／
第15回	テーマ：まとめ 内容： 教科書／